



■ サービス内容

コアバリューとなる開示促進サービスを中心に、上場企業のESG活動を効率化・充実化させるメニューを提供しています。2024年12月からはIFRS S1・S2の開示に対応するサービスの提供を開始しました。以降も、段階的に提供サービスを拡充していきます。

提供サービス	内容	メニュー
1 開示促進サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用機関が投資判断やエンゲージメント活動を行う際に重視するESG項目と、その項目を重視する理由や考え方を把握することができる</li> <li>運用機関全体の重視傾向や運用機関ごとの考え方を把握することで、自社の開示項目やマテリアリティ検討に活用すると共に、社内コンセンサス形成の論拠にも活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重視項目の閲覧</li> <li>重視項目(背景/理由)の閲覧</li> </ul>
2 <b>NEW!</b> ISSB情報開示最適化支援サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>提供するテンプレート(IFRS S1・S2、SASB)に沿って情報を入力することで、開示基準に沿ったサステナビリティ情報開示の準備を進められる</li> <li>テンプレートへの自社の情報入力やIFRS S1・S2開示項目との充足度確認(Fit&amp;Gap)を省力化でき、効率的に開示準備を進められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テンプレート提供</li> <li>テンプレート入力代行<sup>※1</sup></li> <li>Fit&amp;Gapアセスメント<sup>※1</sup></li> </ul>
3 開示情報参照サービス (ESGデータベース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社のESG情報を値と注釈をセットで直接登録し、運用機関に広く情報開示できる</li> <li>他社のESG情報を閲覧し、ベンチマークデータとして活用することができる</li> <li>運用機関からよく受ける開示情報に関する質問事項への回答等を、掲示板のような形で運用機関向けに広く公開することができ、個別に対応する負担が軽減できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESG情報の登録/開示</li> <li>他社開示情報の閲覧</li> </ul>
4 コミュニケーション支援サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用機関が登録した自社とのエンゲージメントの記録(テーマ、ゴール、対話記録)を参照できる(※運用機関が開示した場合のみ)</li> <li>運用機関と上場企業との個別質問事項を管理することで、エンゲージメント前に認識あわせができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイルストーン照会</li> <li>対話記録</li> </ul>

※1: いずれもオプションでのご提供となります。

■ 利用環境

- インターネット外部接続が可能なWebブラウザ環境を通してのご利用となります。
- Webブラウザは、Microsoft EdgeおよびGoogle Chromeを前提とします。その他のブラウザでは正常に動作しない場合があります。
- ご利用の際には、2要素認証<sup>※2</sup>による本人確認を行います。

※2: 2要素認証とは、通常のパスワード認証に加えて、ワンタイムパスワードによる認証を設定してセキュリティを強化する機能。

■ サステナブルファイナンスプラットフォーム運営協会

- 運用機関とその投資先である上場企業をデジタルプラットフォームでシームレスにつなぎ、ESGに関する相互理解や情報開示などを促進するための共同検討を進める一般社団法人です。ESG投資に関わる課題解決にフォーカスしたサービス提供と価値検証を実施しています。
- 本運営協会の会員企業は次の通りです。  
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社、損害保険ジャパン株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、日本生命保険相互会社、株式会社日立製作所、株式会社みずほ銀行、株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行

- 本カタログリーフレット中の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。
- SFP-ESSは日立製作所が提供するクラウドサービス(SaaS)を活用しており、IFRS財団とのライセンス契約のもとIFRS S1・S2、および、SASBスタンダードの情報を提供しています。
- 記載の仕様は、製品の改良などのため変更することがあります。
- 本カタログリーフレットに記載のサービス内容は2025年3月末までを対象としています。2025年4月以降のサービス内容およびサービス利用料などについては、別途ご案内をさせていただきます。ご不明な場合は、下記にお問い合わせください。

Sustainable Finance Platform / Engagement Support Serviceに関する詳細・サービス利用料などのお問い合わせは下記へ

■ サステナブルファイナンスプラットフォーム運営協会の情報サイト

<https://sfp-ess.org>

■ インターネットでのお問い合わせ

<https://sfp-ess.org/script/mailform/contact/>

一般社団法人  
サステナブルファイナンスプラットフォーム運営協会

上場企業の皆様へ

運用機関と上場企業をつなぐ

# Sustainable Finance Platform / Engagement Support Service



## ESG投資への関心が高まる中 次のような課題を抱えていませんか？

取組みの推進を  
対外的に  
アピールする場が  
不足している

情報開示に向けた  
社内での合意形成が  
進まない

運用機関各社の  
重視するESG情報の  
確認・対応に  
手間がかかる

## 運用機関と上場企業を デジタルプラットフォームでつなぐことで 相互理解を深め効果的なエンゲージメントを実現

上場企業

運用機関

投資家の方々は  
こういう情報の開示を  
求めているんですね  
これを社内の関係者と  
調整するための  
材料にしよう

大企業  
(TOPIX500等)

自社サイト

統合報告書  
ESGレポート

ESG情報

登録

- 開示促進サービス
- ISSB情報開示最適化支援
- ESGデータベース
- コミュニケーション支援

SFP-ESS

プライム等の  
上場企業

グロース等の  
上場企業

開示登録により認知された結果  
株価形成の効果がでてきた

上場企業の皆さんに  
ESG開示を促進する  
ための考え方を  
具体化して伝えよう

大手  
運用機関

ESG開示  
促進情報

登録

上場企業が開示項目  
を直接登録している  
ので、安心して活用  
できる

これらを使って  
企業比較を  
行ってみよう

当社が注力している  
業種の中で  
新たな投資先を  
見極めるため  
幅広く上場企業に  
考え方を伝えておこう

## SFP-ESSは、運用機関と上場企業の相互理解を深めます

国際開示基準※1に沿った運用機関のニーズが分かり、  
「効果的に」社内合意を進めることができます。

SFP-ESSを利用する運用機関が重視するESG項目と  
その理由・背景を「効率的に」把握できます。

自社の取り組みを、運用機関が必要な内容に絞って  
「直接」アピールすることができます。

持続的な成長と  
企業価値向上  
に貢献！

※1：SFP-ESSでは、IFRS S1・S2およびSASB(Sustainability Accounting Standards Board(サステナビリティ会計基準審議会))スタンダードに対応しています。2024年12月現在、SASBスタンダードに沿った運用機関のニーズ把握に対応しており、今後、IFRS S1・S2に沿った運用機関のニーズ把握への対応を予定しています。

### ■ サービス利用イメージの例 (開示促進サービス)

運用機関は国際開示基準に沿って、開示項目ごとに開示の重視度合い(4段階)と開示を重視する理由や背景を入力することで、上場企業に開示して欲しいESG項目とその考え方を伝えることができます。2024年12月現在、SASBスタンダードに沿ったニーズが閲覧可能です。今後IFRS S1・S2に沿った運用機関のニーズ登録、および、上場企業の閲覧に対応する予定です。上場企業は運用機関のニーズを確認し、自社の開示方針策定に活用できます。

### 開示促進サービスの利用例

目標	重視程度	重視理由
報告セグメント別生産量(当)	5 1 3 1	詳細
スコープ1のグローバル総排出量、排出量削減の対称割合	7 5 2 0	詳細
スコープ1排出量管理の長期的・短期的な戦略または計画、排出	8 6 2 0	詳細
以下の汚染物質の大気排出量：(1) NO <sub>x</sub> (4) (N <sub>2</sub> O)を除く、	6 2 2 2	詳細
(1) エネルギー消費総量、(2) 系統電力の割合、(3) 再生可	7 3 3 1	詳細
(1) 総取水量、(2) 総水消費量、ベースライン水ストレスが、	6 1 2 3	詳細
水質の許可、基準、および規制に関連する不適合災害の数	6 0 1 5	詳細
水管理リスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と	6 0 4 2	詳細
有害廃棄物の発生量、リサイクル率	8 4 2 2	詳細
コミュニティの利害に関連するリスクと機会を管理するための開	5 0 3 2	詳細
(1) (a) 正社員および (b) 契約社員の総災害発生率 (TRIR)	4 0 1 3	詳細

運用機関

- 重視項目を選択
- 重視理由の入力

ESG項目ごとに重視している運用機関を確認  
重視理由を閲覧

上場企業

運用機関のニーズにあったメリハリのある情報開示が可能になる